

2019年3月期 第3四半期の業績（連結）について

(1) 売上収益 (決算短信 2 ページ)

当第3四半期の売上収益は、前年同期比 226 億円 (11.3%) 増加の 2,232 億円となりました。

その内訳は、製品売上が前年同期比 39 億円 (2.4%) 増の 1,638 億円、「ロイヤルティ・その他」が前年同期比 188 億円 (46.2%) 増の 594 億円となっています。

長期収載品は薬価改定および後発品使用促進策の影響を受けて減収となりましたが、主力製品である抗悪性腫瘍剤「オプジーボ点滴静注」は、薬価改定の影響はあるものの一昨年度に効能追加された腎細胞がん、頭頸部がん、昨年度に効能追加された胃がん等への使用が拡大したことにより、前年同期比 24 億円 (3.4%) 増加の 713 億円となりました。

その他の主要新製品においては、関節リウマチ治療剤「オレンシア皮下注」が前年同期比 25 億円増の 134 億円、2 型糖尿病治療剤「フォシーガ錠」が前年同期比 26 億円増の 111 億円、血液透析下の二次性副甲状腺機能亢進症治療剤「パーサビブ静注透析用」が 19 億円増の 44 億円と堅調に推移しました。

なお、「ロイヤルティ・その他」の内容については、決算短信の 12 ページに記載の通り、ブリistol・マイヤーズ・スクイブ社からの「オプジーボ点滴静注」に係るロイヤルティ収入が前年同期比 149 億円増の 433 億円、メルク社からのキイトルーダに係るロイヤルティ収入が対前年同期比 46 億円増の 90 億円となっています。

(2) 営業利益

営業利益は、前年同期比 微減 (0.1%減) の 521 億円となりました。

費用面では、売上原価が IFRS 第 15 号適用の影響による増加 (83 億円) に加え、オプジーボ原薬の安定供給を受けるための一時的な負担金が発生したこと等により、前年同期比 164 億円 (32.6%) 増加の 666 億円となりました。

研究開発費は、「オプジーボ点滴静注」関連費用や創薬提携に係るライセンス料等が増加したことにより、前年同期比 28 億円 (5.8%) 増加の 512 億円となりました。

研究開発費を除く販売費及び一般管理費は、「オプジーボ点滴静注」や「フォシーガ錠」等の主要新製品に係る営業経費等の増加により、前年同期比 27 億円 (5.4%) 増加の 522 億円となりました。

(3) 税引前四半期利益

金融収益が前年同期比 1 億円増の 32 億円、金融費用も前年同期比 1 億円増となったことから金融収支が 31 億円となり、結果、税引前四半期利益は前年同期比 1 億円減の 552 億円となりました。

(4) 親会社所有者に帰属する四半期利益

親会社所有者に帰属する四半期利益は、法人所得税が減少（通期予想税率の低下）したことにより、前年同期比 17 億円（4.1%）増加し、431 億円となりました。

親会社所有者に帰属する四半期利益の増加は、税引前四半期利益がほぼ前年同期並みでしたので、法人所得税の差によるものですが、これは、期中の四半期決算において使用している通期の予想税率の違いによる影響が出たことによります。

2019 年 3 月期の業績予想（連結）について

通期の連結業績予想につきましては、2018 年 11 月 1 日に公表しました業績予想から変更はございません。

期末配当金について

期末配当金につきましては、1 株当たり 22.50 円とさせていただく予定で、現状において変更はございません。